

科目ナンバリング		U-LAS01 10001 LJ38					
授業科目名 <英訳>	日本史 I Japanese History I	担当者所属 職名・氏名	人文科学研究所 教授 高階 絵里加 人文科学研究所 准教授 福家 崇洋 人文科学研究所 助教 菊地 暁				
群	人文・社会科学科目群	分野(分類)	歴史・文明(基礎)			使用言語	日本語
旧群	A群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	講義
開講年度・ 開講期	2021・前期	曜時限	月2	配当学年	全回生	対象学生	全学向

【授業の概要・目的】

近代から現代にかけての日本の歴史から3つのテーマをとりあげ、リレー式で講義を行う。
 まず、幕末から近代初期における日本文化の変容と定着を、西洋化をめぐる相剋と同時代の社会的状況との交錯のなかから歴史資料、視覚資料を用いて具体的に明らかにする。
 次に、視点を変えて美術の側面における日本の近代化を実際の作品に則して考える。芸術の発展は社会の変化と密接な関係があり、明治維新时期はとりわけ西洋の影響により日本の美術に大きな変化が生じた。
 最後に、近代から現代にかけて京都の中でも文化的エリアとしてさまざまな活動の場となった「左京」という身近なテーマに焦点を当て、今ここで学ぶ私たちにとっての歴史とは何か、その意味を問う。
 3つのテーマを通して、社会・文化・芸術・学問における日本の近代化の流れを確認し、知識だけではない現代につながる歴史について理解を深める。

【到達目標】

近代の最も大きな変革期であった明治期以降の政治・社会・文化について歴史資料や視覚資料にもとづいて理解し、現在につながる日本の近現代史についての幅広く多様な視点の獲得をめざす。

【授業計画と内容】

3名の講師が日本の近現代史に関連するそれぞれのテーマで各4～5回の講義を行う。

1. テーマ 日本近代と文明開化 担当：福家崇洋

幕末から近代初期における日本文化の諸相に焦点をあてて近代化の内実について考察する。西洋化をめぐる相剋を縦系、同時代の社会的状況を横系として、両者の交錯のなかから日本文化の変容と定着を、歴史資料、視覚資料を用いて具体的に明らかにしていく。

- 第1回 日本近代と「文明開化」(1) 博覧会の実施
- 第2回 日本近代と「文明開化」(2) 百貨店の普及
- 第3回 日本近代と「文明開化」(3) 洋食・カフェ
- 第4回 日本近代と「文明開化」(4) 映画の受容史

2. テーマ： 近代日本の美術 担当:高階絵里加

開国後、本格的な西洋芸術の技法や概念に遭遇した日本の美術は、どのように変化し新しい表現

日本史 I (2)へ続く

日本史Ⅰ(2)

を獲得したのだろうか。19世紀に大きな変革を遂げた日本の美術について、江戸から明治への社会の移り変わりや西洋画法の導入、開国と美術政策、明治前期の洋画と留学した画家たち、伝統復興運動と洋画の新傾向等のテーマをとりあげ、絵画を中心にスライドで具体的な作品を觀賞しつつ考える。

- 第1回 西洋画法との出会い 江戸から明治へ
- 第2回 開国と美術 蕃書調所と初期の渡欧画家たち
- 第3回 工部美術学校と明治中期の渡欧画家たち
- 第4回 伝統復興運動と東京美術学校
- 第5回 洋画の発展と主題の模索 まとめ

3. テーマ 学術都市・左京を考える：「文化史学」を中心として 担当:菊地暁

左京区は「大学と寺の町」と称される京都の中でもユニークな存在感を放っている。1897年に京都帝国大学が設置されたことが大きく影響しているが、それ以外にも、多くの大学、図書館、美術館、博物館、文書館が集中し、密度の濃い文化環境が形成された点が重要だろう。「新京都学派」をはじめ、さまざまな思想運動、学術運動、文化運動、社会運動がこの地を拠点に展開された。「文化史学」という領域の学問運動を中心に、その担い手と作品の様相を概観し、「左京で学問することの意味を考えてみたい。

- 第1回 「京大文化史学派」の挑戦
- 第2回 新村出の『広辞苑』に至る道
- 第3回 「新京都学派」の光と影
- 第4回 『北白川こども風土記』の世界
- 第5回 学問都市・左京の現在

授業回数はフィードバックを含め全15回とする。

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

レポートによる評価とする。

【教科書】

授業中に指示する

【参考書等】

(参考書)

授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

テーマ1(福家)参考文献として、A・ゴードン『日本の200年』(みすず書房、2013年)等を予習復習に活用することを推奨する。

テーマ2(高階)参考文献として、辻惟雄『日本美術の歴史』(東京大学出版会、2005)、辻惟雄・

日本史Ⅰ(3)へ続く

日本史Ⅰ(3)

泉武夫編『日本美術史ハンドブック』（新書館、2009）、山口桂三郎監修『日本の近代絵画』（ブレン出版、1996）等を予習・復習に活用することを推奨する。

テーマ3（菊地）まず、大学に学ぶ者として、佐藤郁哉『大学改革の迷走』（ちくま新書、2019年）の一読を推奨する。さらにこのテーマに関心を持つ者には、ネット連載記事「人文研探検—新京都学派のプロフィール」（<http://www.keio-up.co.jp/kup/sp/jinbunken/0001.html>）を推奨する。

【その他（オフィスアワー等）】

定員を超えた場合には無作為に抽選を行う。